



北米ホーリネス教団  
オレンジ郡  
キリスト教会  
「週報」

2014年の努力目標

1. 朝の15分の祈りを大切に。
2. 1日2章の聖書日課に励む
3. 日ごとの写教に励む
4. 定期の祈り会に参加
4. 聖書研究・家庭集会への参加
5. 礼拝欠席の時は牧師に連絡を。

◎集会案内◎

日曜 礼拝 : 9:30~10:45am  
 コーヒー・アワー : 日曜日 10:45~11:15am  
 聖書の学び : 日曜日 11:15~12pm  
 みふみ会 : 水曜日 10am  
 定例祈禱会 : 水曜日 7:30pm  
 早天祈禱会 : 土曜日 7am  
 家庭集会 : 各地区に2箇所  
 牧 師 : 杉村 幸 (日本語部)  
 : 益田デーロ (英語部)  
 電 話 : (714) 827-6244 (教会)  
 : (714) 527-1456 (牧師館)  
 E-Mail : sugimura1950@gmail.com  
 教会ホームページ : www.occc.org  
 教会所在地 : 4872 Bishop St.  
 Cypress, CA 90630

石 叫 石

◎石叫■ 「3年間、変わらぬ思いをありがとう」

以下の文は『羅府新報』(三月12日付)に載っていた「きょうの人」というコラムにあったものだ。その広野あみさんと、弟の諒(りょう)君との話だ。

東日本大震災と東京電力福島第一原発事故から、間もない4月の始業式の朝、福島市内の山間の国道を走る警察車両に、2人で手を振ったのが始まりだった。「いつもありがとう」「おつかれさまでした」(あみさん)

「がんばれファイト!」「おかえりなさい」(諒君)

毎朝夕、手作りのボードを掲げ、避難指示区域の捜索活動に向かい、帰ってくる機動隊のバスやパトカーに感謝の言葉を伝え続けた。その姉弟の物語が、「ありがとうの気持ちこそめて」というタイトルで、平成二十六年年度の小学3年用の道徳の副読本(光村図書出版)に掲載された。あみさんは、「子供や家族と別れ、県外から応援に来てくれていた警察官を応援したかった」と振り返る。

機動隊の大隊長が、車を止めて声をかけてくれた。任務を終えて交代する部隊からお礼の色紙をもらったり、記念写真を撮ったりした。2人が学校から帰るのを待っていてくれる部隊もあった。諒くんは、「疲れて帰ってきたとき、2人の笑顔に励まされた」と言ってくれた。とはにかむ。

4月中3と中1になる2人の夢は警察官。2人の制服姿の写真が、福島県警の警察官募集のポスターにも採用された。休日に飯坂温泉など派遣部隊の滞在先に足を運び、警察車両の窓に応援のビラをはさむ活動も始めた。「3年間、変わらぬ思いをありがとうございます」。そう、新しいメッセージを書き込んだ。

この二人は、小学生の時から3年間も感謝を言い表してきた。一言の感謝でも、それがいつも変わらずに続けられてきたことが、とかく陽の目を見ずに陰の奉仕となりやすい機動隊や警察官たちにとっては大きな感動だったのであろう。そのような幼い二人のひたむきな思いが他者の心を揺り動かしたのだった。

パウロは「あなたがたの熱心は、多くの人を奮起させたのである」(第二コリント九・2)と記すが、この奮起は励ましという言葉である。エルサレムの貧しい聖徒を助けるために、極度の貧しさの中にあつたコリントの人々の捧げ物が彼らを大きく励ましたように、私たちはどういふ状況にあつても、他者を励ますために主イエスから遣わされていることを、ゆめゆめ忘れてはなるまい。

「オレンジ郡キリスト教会の歩み」

オレンジ郡キリスト教会は1977年に発足し、東洋宣教会・北米ホーリネス教団に所属するプロテスタント教会の一つです。北米ホーリネス教団は1921年に創立され、現在は日英両語合わせますと2000名を越える会員になります。

私たちの教会は18世紀に、英国で始まったジョンウエスレーによるメソジスト教会の流れを汲みます。そして他のプロテスタント教会同様、3世紀以来告白され続けてきた使徒信条を、私達の信仰告白と致します。

